

うぐいす



1日10分から始める読書

みなさんは普段、読書していますか。文部科学省の調査によると、日本人は年間で平均12、13冊の読書をしているそうです。月1冊読むか、読まないか、そのくらいの割合です。

仕事や家事、または部活動、習い事などで読書する時間をとれないという方も多いと思いますが、豊かな人間性を育むために欠くことのできない文化活動です。読書には具体的にどんな効果があるのか紹介します。



読解・語彙力がつく：さまざまな言い回しや表現に触れ、覚えることによって、話す時にいくつもの言い回しができる。

集中力がつく：少しずつでも本を読む習慣を身に付けると集中力が持続できるようになる。

想像力がつく：実際に見た事のないもの、行ったことのない世界を想像する。想像することで新しいアイデアや方法が出てくる。想像できるようになることで感受性が豊かになる。

ストレス解消：適度に集中することで、緊張がほぐれリラックスする。

人の気持ちがわかる：いろいろな登場人物が出てくるので、さまざまな人の気持ちや考え方を知ることができる。

上記のように、読書にはメリットがたくさんあります。小さい時に絵本を読んでもらった経験がある人ほど、大人になっても読書の習慣があります。つまり、周りの大人に絵本を読んでもらったという幸せな体験が大切なのです。子どもが絵本と出会うきっかけをつくるのは大人の役目です。

近年ではスマートフォンやインターネットの普及で、メディアに頼ってしまいがちです。忙しい現代人には都合の良いものであることは間違いありませんが読書ほどの効果は期待できません。

忙しい時こそ、日常生活の中にゆったりとした時間をつくるのが大切なのかもしれません。



館矢間地区の区長さんの活動は、行政文書配布と地域の要望の取りまとめだけではなく数えると50項目程あります。

自主防災は館矢間地区協議会の事業に位置づけられ、有事の際のための活動として事業化しています。区長さんは各自主防災会の会長を務め、地域の方々と協力して出来るだけ負傷者を出さず避難するため、日々の自主防災訓練の企画運営をしています。



館矢間地区合同避難訓練

地域住民がお互いに顔見知りの関係を築くことが一番の防災であると考え、地域の連携を大切にしています。来年度は、情報連絡体制の訓練を主とした館矢間地区防災訓練を実施する予定です。

区長さんは、館矢間地区公衆衛生組合の班長も兼任しており、ごみ集積所でのトラブルや改善にも尽力しています。また、道路愛護会では町道の路肩の草刈り作業の段取りや道路の補修など、環境整備に対しても町役場へ依頼したりしています。



区長さんたち
バイオマス発電について学ぶ

月初めの定例会では地区内での課題の情報共有や解決策を話し合っ

たりしています。地域ごとに課題は違えど、その課題を真摯に受け止め地区住民がより良く生活できるため日々活動しています。

3月のこよみ

11日(日) 第34回仙南長持唄大会(白石市)

12日(月) 絵本読み聞かせ講座

(丸森まちづくりセンター)

16日(金) 丸森町文化財友の会第2回研修会

18日(日) 絵本読み聞かせ講座

(丸森町まちづくりセンター)

このように、地域の課題をとらえて、考え、学び、解決に向けて努力することは、まさしく公民館事業、社会教育事業です。

